



## 歴史を作る「まち×学生プロジェクト」

協働パターン 自治連合会と大学、地域ケアプラザ（福祉保健拠点）



### 概要

主体者名称	六角橋自治連合会				町会設立年	1958年	
協働先	横浜市六角橋地域ケアプラザ、神奈川大学						
所在地	横浜市神奈川区	町会加入世帯数	5,350	加入率	67.5%	町会運営メンバー	約30人 平均82歳
地域の状況	戦前から続く古き良き面影が残る六角橋商店街と神奈川大学があり、地形的には起伏に富んだ地域。まちの活動拠点として地域ケアプラザが存在している。						
協働の内容	地域住民と学生が互いの生活様式等の違いを理解し、価値観を共有するため直接顔を合わせ意見交換できる「場」を重ねることで理解者、協力団体が増え、新たなまちづくりのアイデアが生まれた。それらが多様なイベントとして結実し、学生の成長とまちの活力向上につながった。						

### 協働のきっかけ

六角橋のまちづくりの構成要素は「大学、商店街、神社」の3つですが、地域住民と学生との想いには、身近にいる認識はあるものの、縁遠い存在になっていました。それぞれから話を聞いていた地域ケアプラザのコーディネーターの呼びかけにより、自治連合会と学生の意見交換会を開催することになりました。学生たちと顔を合わせたことで定期開催の機運が高まり、「まち×学生プロジェクト」（まちかけ）の発足につながりました。初めのうちは学生の参加状況は振るわなかったものの、徐々に学生側からも企画が持ち込まれるようになり、様々な形で協働が進んでいきました。

### 回答者

六角橋自治連合会会長  
もり つとむ  
森 勤 さん



横浜市六角橋地域ケアプラザ  
地域交流コーディネーター  
はらしま たかゆき  
原島 隆行 さん



## 取組内容

「地域と学生が気軽にあいさつのできるまち」「学生の学びを応援できるまち」「卒業しても戻ってきたい、住み続けたいまち」を共に創る活動に取り組んできました。

活動の始まりは「六神祭」です。神奈川大学の学生による活動発表・交流会として開催するもので、六角橋の「六」と神奈川大学の「神」から命名されました。他にも、地産地消をテーマにまちの魅力を知るための「神大マルシェ」や、「1年を通して出会った人々が冬にもう一度再会しよう」というコンセプトで区内外24か所に自作のキャンドルを設置する「キャンドルナイト」、大学卒業後も戻ってきたいと思えるまちを創ることを目的とした、まち主催の卒業式「社会人の門出式」などを実施し、地域のネットワークの拡充を図りました。

2020年には、コロナ禍でアルバイト収入が得られず困っていた学生を、地域が「食」と「職」で応援する「まちSHOKU」を実施しました。これは、5年間かけて積み重ねてきた関係構築の成果の表れだったのではないのでしょうか。

## 協働で工夫したポイント

### 自治連合会

それぞれの立場から自由に忌憚なく理想を口にしてきたのがよかったと思います。そうした理想が一つひとつ実現して今に至っており、今後も発展すると感じています。できることからとにかく取り組んでみる、実績を重ねて実行可能なことを見つけていくことが必要です。また、まちづくりは「誰とやるか」も大事です。コーディネーターとは常に二人三脚で進めてきました。

### コーディネーター（地域ケアプラザ）

まちかけメンバーのしたいこと、やりたいことに「No」と言わず、「Yes」にする方法を考えることに全力を尽くしています。

学生は地域のさまざまな年齢や所属の方と接したり、プロジェクトを運営したりすることで成長することができ、まちには活気が生まれます。まちと学生の両者にメリットがあることが活動のチカラとなるので、そのメリットを引き出すようにサポートすることを大切にしています。

また、まちと学生は並列であること、「まち×学生」の「×（かける）」（コーディネーター）の部分も大事です。コーディネーターはニュートラルな立場から、状況に応じてまち側／学生側と、立場の塩梅を変えることができます。例えば、まち側から学生側に手伝いをお願いしたいという話があった時は、まずは、まち側の想いを受け止めた上で学生の立場から、学生が活動しやすい内容や時間を伝えました。もちろん、その逆の場合もあります。片方だけが負担を感じないよう、両方の状況を理解し、代弁し、時に翻訳して相手に伝えることで、双方が気持ちよく取り組めるようにしています。

## ふりかえり（評価）

### (1) 事業の実施結果

#### 期待していた良い結果

地域住民と学生の対話の機会が増えたことで、互いに関心を持つようになりました。地域の活動に若い活力が反映されるとともに、学生は、まちのためにできることに前向きになっています。

#### 予想していなかった良い結果

学生の成長する姿を身近に感じ、それに多少でも関わることができました。

想いをつなぎ、継続していく次の一手を考えることが大切です。コーディネーターは、メディアに掲載されて評価を得ることや、人材や資金を調達するといった下地作りを常に意識してまちづくりに参画しています。

### (2) 協働の一連の取組結果

事業準備段階	プログラム遂行	事業終了後
○	○	◎

### 自治連合会

LINE等を活用しつつ、企画段階では、必要以上に会って話し合いをしています。

### コーディネーター（地域ケアプラザ）

当初はお互いが組むメリットは理解しつつも相手の状況が理解できず、どのように協働を生み出すのがよいか手探りで続けていたように感じます。その後、毎月定期的に顔を合わせることで迅速に対応ができる関係が構築されていきました。

## 今後の展開

### コーディネーター（地域ケアプラザ）

学生には、新住民である若い世代と古くからいる住民の潤滑油のような役割を果たしてほしいです。地域住民には、学生がまちに関わる良さを感じてほしいと思います。そうすることで活動の理念をつないでいきたいと考えています。

### 自治連合会会長

町内会もメンバーが高齢となっているため、若い世代に向けて「何をやるか？」が大事で、今後、町内会に若い世代の住民が参加してもらえるようにしていきたいです。また、まちづくりにおける縁の下の力持ちであるコーディネーター自身がやりがいや成長を感じられる場・機会であることも大事です。

## 活動者・参加者の声

### 学生

プロジェクトを通じて、六角橋地域の人のやさしさに触れ、まちが大好きになりました！！また、人に頼ることの大切さと難しさを実感する機会も多く、社会人への一歩として勉強させて頂きました。

「まち×学生プロジェクト（まちかけ）活動報告書～5年の歩み～」より